

第5回伊賀市下水道事業経営検討委員会 議事録

■開催日時 2021（令和3）年3月11日（木） 午後2時から午後2時40分まで

■開催場所 ゆめぼりすセンター2階 大会議室

■出席者

【委員（12名）】（敬称略）

岩崎 克則（三重大学人文学部法律経済学科 准教授）

山中 利之（公認会計士）

界外 直樹（伊賀地域自治推進会議代表）

高森 洋導（島ヶ原地域まちづくり協議会 委員）

奥井 平和（河合地域住民自治協議会 事務局長）

森田 安俊（伊賀市農業集落排水処理施設連絡協議会 会長）

上田 賢博（山田南地区農業集落排水施設維持管理組合 組合長）

福岡 文典（ゆめぼりす伊賀立地企業連絡会 事務局）

山本 禎昭（上野商工会議所 副会頭）

大田 節子（伊賀市商工会 女性部長）

中野 富美子（市民公募）

廣岡 伸幸（市民公募）

【事務局】

上下水道部 高木上下水道事業管理者職務代理者兼上下水道部長、中西次長兼経営企画課長、岸次長兼水道施設課長

営業課 福永課長

下水道課 森中課長

経営企画課 稲森主幹兼総務係長

【関係業者】

日本水工設計（株）名古屋支社 杉江、谷端

■傍聴者 なし

■会議概要

1. 開会

（出席者全員） 東日本大震災の犠牲者追悼のため、黙祷

（会長）

皆さんこんにちは。年度末の何かとお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。うございませう。

ただ今事務局からもお話がありましたが、この震災により生活が一変し、今までできていたことが全くできなくなるということで、天と地がひっくり返ったような状況になったと思います。

改めて我々にとってこの平穏な毎日がいかに大切か、ありがたいことかということをかみしめて、一日一日を大切に生きていきたいと思うところです。

さて、本日は第5回の委員会ということです。一昨年7月30日の第1回で諮問を受けまして、それから5回目ということで、1年8ヶ月近くの期間を通じて、やっと答申案まで漕ぎ着けて参りました。

本当に皆様方のご協力に感謝しますとともに、おそらく本日が最後の委員会になろうかと思っておりますので、最後にもうひと絞り、知恵を絞っていただきまして、より良い答申案にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(事務局) 会議の出欠状況報告、会議の公開に係る説明、配布資料の確認

2. 協議事項

(1) 使用料改定シミュレーションの再検討について

(事務局) 資料1に基づき説明

(会長) 人槽制、人頭制、従量制の3パターンが示されていますが、どの形でいきますということはこの場では求めずに、今後検討していくということによろしいですか。

(事務局) そのとおりです。前回、委員から5人槽の家に1人で住んでいると割高感があるといったご意見もありましたが、浄化槽の人槽数というのは家の床面積に合わせて算出されるものですので、10人槽の家に1人で住んでいる場合や、5人槽の家に8人住んでいるような場合もあるということをご理解いただきたいと思います。

この3パターンの中でどれにするかということは、本日次の項目でご審議いただく答申の内容を反映し、行政の方で最終的に決めさせていただきたいということです。

(会長) この内容について、本日ご欠席ですが、戸別合併浄化槽使用者代表としてご参画いただいている福山委員のご意見は聞いていますか。

(事務局) 予めご欠席の連絡をいただきましたので、この内容について事前に説明させていただきましたところ、納得しましたということでお返事をいただいています。

(会長) 他にご意見等はございませんか。

特に無いようでしたら、概ねご理解いただいたということで、次の項目に進めていきたいと思っております。

(2) 答申書(案)について

(事務局) 資料2に基づき説明

(委員) 前回委員会の最後に、答申案の中では統廃合計画も並行して考えるということをおっしゃっていたと思います。

この答申案の中では2ページの下水道使用料改定の考え方の(3)がその辺に当たるのかなと思いますが、前回言っていたような統廃合計画が具体的に言葉としては無いので、その辺の処理をどのようにしたのか、教えていただきたい。

(事務局) 施設の統廃合につきましては、下水道事業経営戦略に方向性が記載されており、現在、下水道課の方で計画策定を進めているところです。

それを踏まえて、ということになりますので、答申をいただくに当たりましては、具体的にどのエリアとどのエリアというようなところまで記載するべきではないと考えています。

(委員) 私どもの地区の施設が昨年オープンし、その中でも統廃合の話が出てきましたので、やはり具体的に進んでいくのかなと思っています。

老朽化が進んでいる、改築更新の時期を迎えているというのはわかっていた話なので、中長期的な経営安定に向けた施設の統廃合というものも、もし入るようであれば、言葉で入れておいた方が良くと思います。

私の住んでいる大山田の中でも、古い施設と新しい施設が場所的に割と固まっており、おそらく将来的にはそれを改築していくのではなく、統廃合されることになるような気がします。

その辺も踏まえた記述とした方が良くはないかと思いますが、いやいや、そこまで具体的には難しい、ということであれば、そういうのも考えるということでも結構だと思いますが、その辺はどうですか。

(事務局)

おっしゃるとおり、統廃合は避けては通れないものと考えており、現状でも計画を進めているところです。

個別にA地区とB地区の統合など、そういった部分はまた別のところで発表等させていただく流れになると思います、統廃合が進んでいくという旨の文言については検討させていただきます。

(委員) わかりました。趣旨をご理解いただければ結構ですので、ご検討いただきたいと思います。

(委員) 先ほどの質問についてですが、事務局は少しごまかしてあるように見えるが、

この統廃合の話はもっと明確に入れたほうが良いと思います。

そういう事業が料金の見直しと一緒に進んでいくので、具体的な形で記載した方が良いと思いますが、その点についてももう一度返答願います。

(事務局) 具体的にどの地区とどの地区ということはまだ入れられませんが、統廃合の文言について、もう少し行数を増やして記載させていただきたいと思います。

(委員) それからもう1点、部長にお聞きしたい。

4ページの(2)従量制への移行についてということで、従量制の方がより公平性が高いので移行を進めるといふものの、井戸水を使っている人が一定数おり、難しいと書いてある。

部長の今の見解として、従量制をどのような形で、どんな時期に進めていくか、具体的なお話、強く推す意図があれば聞かせていただきたい。

(部長) 答申をこの委員会です承いただきましたら、早速、井戸水の課題についてどうクリアしていくのか等を具体的に精査した中で、次年度進めていきたいと今のところは考えています。

先ほど、施設の統廃合についてご意見をいただきましたが、これは一番重要なことです。

下水道課の方からも連絡協議会等で計画について説明させていただいたところであり、2ページの下水道使用料改定の考え方についての(3)の文章に、統廃合計画も進めていく旨の文言を追加する形で修正させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(会長) 他にご意見はございませんか。

無いようでしたら、他の内容は十分理解していただいたということでございます。

ただ今の修正の部分については、また皆さんに集まっていただくのも難しいことですので、事務局の方で修正していただいたものを私の方で確認し、進めることとさせていただきます、修正したものは委員の皆さんに送付してもらおう形でよろしいですか。

(事務局) はい、そのように取り扱させていただきます。

(会長) そうしましたら、修正の件はそのような対応をさせていただくということで、私の方にお任せいただくこととお認めいただければ、修正後のものを皆さんの方へ送らせていただきます。

その上で上下水道事業管理者へ答申させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それではこの答申案につきまして委員の皆さんの承認を取りたいと思います。ご承認いただける方は拍手をよろしくお願ひします。

(拍手)

(会長) ありがとうございます。

それでは修正したものを答申書として提出させていただきますので、よろしくお願ひします。

答申に向けた今後のスケジュールにつきまして、事務局の方から説明をお願いできますか。

(事務局) 今後のスケジュールでございますが、年度内に答申をいただきたいと考えており、現在のところ、3月26日(金)を目途に調整させていただきたいと考えています。

その際には、改めて会長、副会長から上下水道事業管理者職務代理者への答申の場を設けたいと考えております。

なお、先ほど会長からお話がありましたように、答申案の修正後の書面については、追って委員の皆様へ送付させていただきます。

(会長) ありがとうございます。時間的に少しタイトですのでよろしくお願いいたします。

3. その他

(事務局) 旅費の支払いに係る事務連絡

閉会

(会長) それでは、これにて終了ということで、上下水道事業管理者からの諮問について調査審議した結果を答申することとさせていただきます。

今回、答申案についてご審議いただき、一定の結論を得たということで、委員の皆様にお集まりいただくのはこれで最後となります。

皆様方におかれましては、一昨年7月に第1回を開催して以降、5回にわたり議論いただきまして、誠にありがとうございました。

なかなか専門的で難しいテーマであったと思いますが、回を追って理解を深めていただきながら、真摯に議論いただき、おかげをもちまして何とか会長の任を全うすることができ、年度内に答申する運びとなりました。

私は下水道の知識が無いもので、最初うまく進められるか不安でいっぱいでしたが、皆様のご理解、ご協力で進めさせていただきました。

知識が無い方が反って中立的な判断ができるのかな、という勝手な理解もしながら進めさせていただきましたが、無事に答申まで漕ぎ着けさせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます、終わりの言葉とさせていただきます。

本当に長い間ありがとうございました。

それでは事務局の方にお戻しさせていただきます。

(事務局) 委員の皆様方におかれましては、全5回、1年8ヶ月という長期間にわたり、慎重にご審議を重ねていただき本当にありがとうございました。

今後は本委員会からいただいた答申に基づきまして、市の方で使用料の改定案を作成させていただくこととなります。

今回の検討を通しまして、事務局として実際に使用料の改定を進めていくに当たり、当初想定できていなかった多くの課題があることも改めて認識したところです。

今後はこうした課題のひとつひとつに丁寧に向き合いながら、伊賀市に相応しい使用料体系を構築し、持続可能な下水道事業の経営につなげるよう、引き続き努力していく所存でございます。

それでは、これもちまして第5回伊賀市下水道事業経営検討委員会を閉会とさせていただきます。

本当にありがとうございました。